

大阪大学 学生支援GP
News Letter

K a e r u 通信 No.2

くりふ Change Return Incubate Frog

☆2009年2月6日発行 ☆隔月発行

☆発行／大阪大学学生部キャリア支援課 http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/leadership_GP/index.htm

☆編集／大阪大学学生部キャリア支援課 〒565-0871 吹田市山田丘1-1

INTERVIEW

総長インタビュー — 2・3

「総長ラウンド」レポート — 4・5

THE KEY PERSON

夢を創める。
世間を^{よのなか}変える。
変化を^{たの}適しむ。

木川田 一榮 教授 — 6・7

MESSAGE・・・ほか

松本 吉弘 キャリア支援課長 — 8

学生支援GP

参加学生が

動き出した！！

くわしくは
4・5 ページへ



大学で夢を語りたい

高橋さん

僕を含め多数の一回生は、明確に「将来これがやりたい!」というビジョンを持たず、大学の経験でそれを見極めようと考えているようです。そこで、「大学という場で“夢”を見極めるためにどのような事が必要であるのか。」というテーマで、「大学内の色んな活動の情報を一元化して、もっとわかりやすくして下さい。」というプレゼンをさせていただきました。

総長からは「サービスを求めるのではなく、自分たちで創造していけば良い。」「やりたい事を見つけたいなら、とりあえず今までの自分の視野を崩せる場を手に入れて欲しい。」との有効なアドバイスを頂きました。個人的には総長の生き様についてもっと語って欲しかったのですが、今後の活動の参考になりました。次回のいちょう祭で「夢」について語るイベントを企画しているので、その参考にさせていただきます。



留学生と恋愛話を きっかけに知り合う

北村さん

留学生を含めた、たくさんの方とのコネクションを形成することは出来ないだろうか。その為のイベントを作りたい。そのコンセプトのもと、僕たちは6人で、話し合いました。参加してくれた、アメリカ出身の学生の実体験を聞くと、

- ・交流が盛んなのは研究室なのでは?
- ・どうして留学生だけ出席番号が後になる?

など、徹底して取り組めていない問題点が浮き彫りになりました。

そこで、僕たちはただ待っているだけではなく、自らイベントを起こそうとしています。具体的には、

- ・たくさんの留学生を交えたディスカッションなどのイベントを開いて、交流をはかること。
- ・イベントは、一度だけでは無く何度も繰り返し行い、たくさんの方と出会う機会、深めていく機会を作ること。

目標は、阪大にいる全員が、友達の名前にさっと、留学生の名前を挙げられること。そもそも、留学生の「留」という字を取っ払う学校になること。一回目のイベントは、いちょう祭で行います。テーマは「恋」。共通性と相違を見出すことによって、留学生だけでなく、新しい学校内のコネクション作りに取り組みます。



フリーマーケットで 環境を考える?

吉田さん

僕達は「フリーマーケットで環境を考える?」というテーマについてプレゼンさせて頂きました。

グループワークを通して、フリーマーケットならではの環境を考える「きっかけ作り」に気付くことが出来ました。それは、『いらない物売る』ことから『いらない物を捨てない』という考えを持ってもらうことができる、ということです。小さなことであってもたくさんの人に意識してもらえれば、大きな影響を与えることが出来ると思います。

プレゼンでは、総長の「阪大スタイル」についての説明がとてもわかり易かったです。

今回、いちょう祭企画の一つとして一風変わったフリーマーケットを開きます。それが他の大学にまねされるような企画になって、僕らなりの「阪大スタイル」を実現できたら、と思います。



大学に何があるか知りたい

泉さん

私達の班では「大学に何があるかを知りたい」というテーマで話し合いをしました。入学して数年経つ在学生でも大学に関して様々な発見をすることがあります。それは例えばキャンパスの穴場だったり便利な制度だったり、「もっと早く知っておけば…」と思うこともしばしばです。

大学では必要な情報は与えられるのではなく自分で探しに行かなければなりません。上回生になってからそのことに気づくのではなく、新入生に早いうちからアンテナを張ることを意識してもらいたい。早くからあふれる情報にアンテナを張り、自分の必要な情報を取りに行くことが有意義な大学生活にも繋がる、と結論付けました。

そこで、いちょう祭の時期と合わせて、新入生数人でグループを組み、先輩ガイドを付けてキャンパス内探索をする、というイベントを計画しています。自分の足で身近な場所を探索することで新たな魅力を発見し、視野を広げてもらうことで阪大での生活を一層有意義なものにしたいと思います。



ガクモンを楽しむには?

藤澤さん

わが班のプレゼンは、ずばりガクモンを楽しむ!学生が皆、必ず向き合う学問。高校までの勉強と何が違うの?大学で勉強ばかりしてると就職に不利?学問を楽しむきっかけはどこにあるの?などなど白熱した議論の結果をプレゼン。総長には「総長が学問に目覚めたきっかけは?」と質問しました。

総長からは、「社会を新しい角度から見られる学問、楽しくないわけがないじゃないですか!」という返答とキラキラ輝く眼差しが。それはまさに学問の楽しさに溺れている学究の徒の瞳でした。こんなふうに学問を楽しむ、つまり楽問する瞳をもっと学内に増やしたいという想いを胸に私たちは、2009年いちょう祭で「阪大―受けたい授業」を企画します!!



大学がどう外部 と交流するか

池田さん

現在、阪大で一般の人を見ることはあまりできません。いるのは学生と教授ぐらいのものです。元来、市民大学の色が強い阪大でしたが、今その特色が薄れつつあります。阪大が社会に開かれた大学にするにはどうすればよいのでしょうか。その案として、阪大を観光地化することが挙げられました。遊園地のような観光地ではありません。科学館のような、大学で培っている知識を、楽しく伝えるような観光地にします。その効果として、阪大にいろんな人が来るようになり、その人びとに関わるようになります。

そして、いろんな人と関わるうちに、いろんな人の視点で物事を考えることができるようになる、と考えました。



キャンパス内の 情報共有について

国府田さん

今回テーマの提示者ということで、グループワークの際には、議論のまとめ役をやることになり、非常にいい経験ができました。夏の合宿もそうですが、このような意識が高い学生同士でディスカッションをし、それの一つにまとめてプレゼンするといった活動は、とても楽しく刺激的なものです。

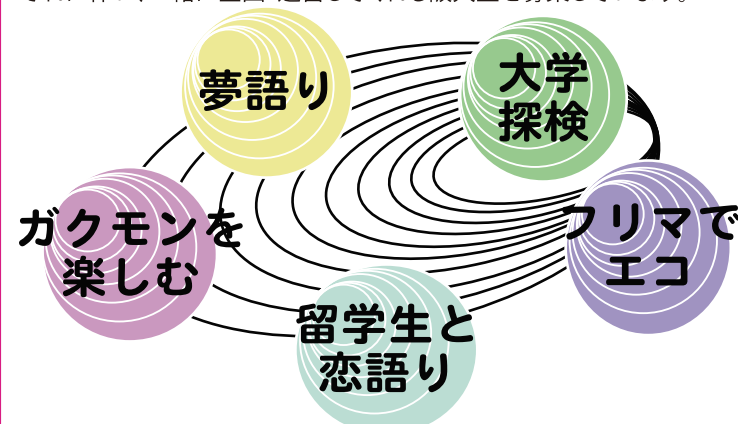
しかしながら、こうした集まりはある種特殊とも言えます。同じ阪大内にも、様々な人がいますし、大学の外に出てみれば、その多様性は計り知れないほどです。大切なのは、異なる考え方や背景をもつ人々と、その壁を乗り越えて協働していこうとすることではないかと思います。このようなイベントはその第一歩として考えたいと思います。現状に満足せず、また新たな価値観との出会いを求めて頑張っていきたいと思います。



大阪大学学生支援G.P「そこまでやって委員会」(学生団体)

プロジェクトメンバー募集中☆☆☆

平成21年度のいちょう祭で学生支援G.P「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」に参加した学生が中心となりイベントを行います。それに伴い、一緒に企画・運営してくれる阪大生を募集しています。



「そこまでやって委員会」は、大阪大学の理念である「地域に生き、世界に伸びる」を掲げ、企画を通して「阪大スタイル」の実現、つまりは「教養・デザイン力・国際性を兼ね備えた人材の育成」を目標としています。そして、「新入生が高いモチベーションを持ち、その結果、有意義な学生生活を過ごしてもらう」ということを目的としています。そのためには、様々な見識とコネクションが必要であると考えました。「見識は学問だけに留まらず社会・国際への関心」、「様々な見識と多種多様な人の間におけるコネクション形成は困難である」。そこで、1つのプロジェクトではなく複数のプロジェクトをすることにより、興味を持つ者同士が集まりやすく、コネクション形成しやすいと考え、5つのプロジェクトを企画しました。

【お問い合わせ】

そこまでやって委員会

WEBサイト:<http://studentsgp-ichou.hustle.ne.jp/>学生支援G.P
参加学生が
動き出した!!!

はじ
夢を創める。

よのなか
世間を変える。

たの
変化を適しむ。

大阪大学

大学教育実践センター教授

木川田 一榮



昨年の米国の金融危機以来、なんだか暗雲が垂れこめる世の中になってきてしまいました。そんな世の中だからこそ、「市民社会におけるリーダーシップ」を身につけた阪大生のみなさんにとって、活躍する時機到来ともいえるのではないのでしょうか。

その昔、阪大の源流である懷徳堂や適塾には、志のある人びとが地元だけではなく全国から集まり、多様な知的にぎわいの場であったようです。

懷徳堂は、三宅石庵たちの儒教文献の「古典に学ぶ」という志を持った同志たちの読書会から始まったといわれています。そして、当時の商人たちにとって、もっとも重要な「徳」のある行動規範、大阪商人道ともいえる基礎を築いていったのです。そうした懷徳堂の同志のなかでも中井竹山の弟である中井履軒は、世間から奇人として知られていたそうです。履軒は、徳川政権体制に迎合するような生き方をたいへん嫌い、悠々と独自の道を履む学者として、志をそのとおりにふみ行うというコミットメントから履軒と名乗りました。その奇人ぶりが、かえて人びとから尊敬されていたようです。このところが大阪らしくて、面白いところですよ。

また、懷徳堂では、履軒の教え子であった両替商升屋の番頭小右衛門が、当時、鬼神の迷信に惑わされていた町民をその呪縛から解き放ち、自らものを考えて行動する人びとへ変えたいという思いを抱いていたそうです。そして、封建体制下の迷信的な闇と夢に代える科学的な理性の言説として、天文学の科学的認識論を展開し、ライフワークとしての無鬼論『宰我の償い』を書き上げた。ところが、草稿に目を通した恩師である奇矯な履軒が、余計な御世話のアドバイスによって、当時としては過激でより挑

発的な『夢の代（夢の代わりに）』と命名して世に出したといわれています。その番頭とは、山片蟠桃ばんとうです。この奇人・変人の師弟がともに、自分の「生き様」をユーモアのある遊び心をもった号に表しているところが、いかにも大阪人らしい茶目っ気があって面白い。

このように阪大の原点にいる先達は当時、世間から奇人・変人と言われながら、自らの独自な志を立てることから始まり、その夢を創めて、その思いを行動に昇華していった方々がじつに多い。そうした独自の道をゆくことによって、市民社会にとって今までになかった望ましい方向性を見出し、具体的な社会的変革をもたらす成果を生み出してきたのです。

緒方洪庵の志も、「世のため人のために心底尽くすこと」にありました。そして、「医術の新知識を持って、人びとを病苦から救済する」という思いが、適塾の開講という行動に移したのです。一説では、洪庵の号である「適々斎」は、世のため人のために尽くすことを、「自らの適しむ」という生き様に由来するともいわれているのが面白いですね。適塾は、師と志を同じくする友との出会いと集い、人と人とのつながりを適しみに適しんだ場であったといえるのではないのでしょうか。

一方、21世紀に生きる阪大生たちは、阪大キャンパスをさまざまな志を持った友との出会いと集いの場として捉え、世間軸としての他者との関わりを促す偶然の出会いを自らデザインしていくことが必要なのではないのでしょうか。

「阪大スタイル」は、世の中の変化に対応するといった受け身では決してありません。私たちの先達のように、よりよい世の中にしていこうという高い志をもって、変化を

起こすことを適しむことにあるのではないのでしょうか。かつて、適塾の塾長を務めた福沢諭吉は、当時、極めつけの異端児であったといわれています。この異端児によって、それまでになかったさまざまな思想や仕組みを世の中に持ち込み、普及させて、知の開化という社会的革新をもたらしたのです。「出来難き事を好んで之を勤むるの心」を持った福沢諭吉自身、異端児であることを自認していました。「古来文明の進歩、そのはじめは皆いわゆる異端妄説に起らざるものなし」という言葉を残しています。

さて、「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」に参加されているみなさんは、どんなスタイルの21世紀の「いちびり」・異端児となって、「夢を創め、世間を変え、変化を適しむ。」のでしょうか。いつの日か、世間の人びとから「あんたら、ええかげんにしいや」と言われる日が来るのが、たのしみでなりません。

あそびてえ
《遊美亭

らくちん
洛沈》

NOTICE 学生支援GPマスコットキャラクター 愛称発表!

創刊号にて学生支援GP「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」のマスコットキャラクターの愛称を募集いたしました。ご応募いただきました方々、ありがとうございました。



©

くりふ デス。 よろしくう～☆

機関紙の名前から名づけられたカエルの「くりふ」。「くりふ」の由来は表紙にも記載しているとおり、「Change・Return・Incubate・Frog」色んな意味のカエルを表しています。

MESSAGE やるべきことをやれば結果はついてくる 松本 吉弘 キャリア支援課長



明けましておめでとうございます。皆さん今年の正月は如何でしたか。

私は例年、近くの神社に初詣をしていましたが、今年は行きませんでした。何故かと言いますと、プロ野球在阪球団の某新監督A.M氏は、神頼みや験担ぎはせず、やるべきことをやれば結果はついてくるとの信念を持っているそうです。

受験生が合格祈願に行くのと同じように、私が入学試験を担当した時は複数の神社に詣でて、出題ミスやトラブルが起きないことを願いましたが叶わず、ふたを開ければ毎年のようにトラブルに見舞われる始末でした。

私は、この監督の考えに共鳴し、今年は今まで以上に自分の信念をもって事に当たろうと思いました。勿論、自分の考えだけでなく、周囲の意見にも耳を傾け、ステークホルダーやコンプライアンスの視点も考慮し判断すべきことは当然です。

昨年、アメリカに端を発したサブプライムローン問題の影響で、本学でも就職内定を取り消された学生が2名出ました。昨今の急激に厳しくなった経済状況においては、何かにつけ神頼みしたくなることは無理からぬことではありますが、人任せでは物事の解決には繋がりません。

本年1月5日の総長念頭挨拶において鷺田総長から、大学の構成員(職員)は自分の置かれている状況・立場を考え、何をすれば良いのかを今一度確認してもらいたいとの訓辞がありました。

先日の総長ラウンドにおいても鷺田総長から「人に何かをしてもらうことを期待するのではなく、自ら行動することが重要」との話もありました。

学生の皆さんも各々の置かれた立場で、行うべき事を考え実行して欲しいと思います。そうすることが皆さんの血となり肉となり大きなパワーとなって未来が開けることと思います。

この学生支援GPの取り組みも2年が経過し、4月からは後半の3年目に入ります。今まで試行してきたプログラムをブラッシュアップし、学生諸君の協力を得ながら完成に向けて取り組みたいと思いますので今後も御協力お願いします。

INFORMATION

「Kaeru 通信くりふ」では、引き続きリーダーシップにちなんだ活動をしている方・団体の情報を募集しています。皆さんの活動を多くの人に知ってもらいたいと思っている方! 投稿をお待ちしています。

【お問い合わせ】

大阪大学学生部キャリア支援課キャリア支援第一係
gakuseikyasiiti@ns.jim.osaka-u.ac.jp

NEXT ISSUE No.3

☆「いちよう祭」活動レポート☆

5月1日(金)～2日(土)に開催される「いちよう祭」へ向けての、学生支援GP「そこまでやって委員会」の活動状況レポートを紹介予定です。

次号発行日は4月3日(金)予定。

EDITOR'S NOTE

☆今回は「総長ラウンド」というイベントを中心にお送りいたしました。実際に鷺田総長をはじめとした先生方や学生の皆さんと場を共有できたことにより、もっとKaeru通信を通じて皆さんのお手伝いができればと思いました。

これからも学生支援GPをよろしくお願い致します。